

大通公園、 100歳。

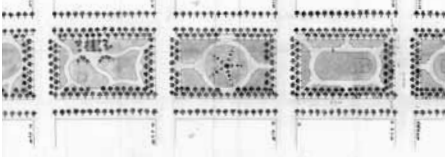
大通公園 100周年

市民の憩いと、にぎわいの場である大通公園の原型が誕生してから、今年で100周年を迎えます。札幌市民にとって欠かせない都心のオアシスは、どのような軌跡をたどってきたのでしょうか。この特集では、100年の歴史やこの秋のイベントを紹介しながら、大通公園のこれからについて考えていきます。

大通公園に関するお問い合わせは
みどりの管理課 ☎211-2536



←大通公園を設計した
長岡安平



↑長岡が描いた設計図
(公益財団法人東京都公園協会所蔵)

この間、時代を反映して姿を変えながらも、大通公園は現在に至るまで、「都心のオアシス」として市民に愛され続けています。

大通はその敷地の広さから多目的に利用されるようになり、明治30年代には植栽や築山も見られました。明治44年には、公園造りの先駆者である東京市技師の長岡安平によって植栽や園路などの本格的な整備が施され、現在の大通公園の原型が出現しました。この時から今年はちょうど100周年になります。

「大通」が札幌に登場するのは、明治2年のこと。火災の延焼を防ぐ「火防線」として造られたといわれ、近年は街を南北に分ける土塁（盛り土）を造る目的で設けられたという説もあります。

国際交流ゾーン

大通公園の 見どころ

3丁目



本郷新の「泉の像」がある公園のシンボリックブロック。噴水は昭和37年と平成3年に、当時の北海道拓殖銀行が寄贈した。

2丁目



多数のベンチとプランターを配置した広場の北側には、オレンジ色の花が美しい「アメリカノウゼンカズラ」が植栽された壁泉がある。

1丁目



大通公園は1丁目から12丁目までで、テレビ塔の部分は含まない。北側（現在NHKのある区画）にはかつて豊平館があった。

時代の変遷とともに歩んだ100年

大通公園年表

1869 (明治2) 年

開拓判官・島義勇が開拓使本庁敷地の正面に空間をつくる計画を立案

1871 (明治4) 年

街の中心部を南北に分ける大規模な空閑地がつくれる

1911 (明治44) 年

長岡安平の設計により、大通逍遙地全面に植樹、西3丁目～7丁目を本格的な公園として整備

1926 (大正15) 年

西13丁目に札幌控訴院（現在の資料館）が完成

1944 (昭和19) 年

戦争中の食糧確保のため、大通公園の1万坪が菜園になる

1950 (昭和25) 年

大通公園の復旧が始まる。西7丁目ですべての雪まつりを開催

1968 (昭和43) 年

西1・2丁目公園化。西4・7・11丁目に噴水を設置

1980 (昭和55) 年

都市公園法が適用され、名実ともに「大通公園」となる

1989 (平成元) 年

大通公園リフレッシュ事業により再整備を開始

1994 (平成6) 年

再整備が完了。現在に至る

空き地から公園へ

明治時代は、大通が空閑地から逍遙地（散歩などをする場所）へと変わっていく時代でした。開拓使によって初めて大通に花が植えられたのが明治9年（3・4丁目）。13年には豊平館（1丁目）が建設され、大規模なイベントなども開催されます。41年には西9・10丁目も逍遙の区域となり、42～44年にかけて本格的な公園に整備されました。



明治44年～大正時代

↑大通西3丁目からの全景

公園ではなくなった戦時中

第二次世界大戦中は食糧不足が深刻になり、一面がイモなどの菜園に変わってしまいます。終戦後は占領軍に接收され、3丁目に教会、4丁目に野球場、5丁目にテニスコートが造られ、それより西は荒れた状態で、ごみ捨て場と化していた時期もありました。「大通を以前のような公園に」という市民からの多数の意見を受けて、昭和25年から復旧が始まりました。



昭和19年

↑大通西7丁目ですべての畑を耕す市民



大通公園の再整備を担当した
市みどりの推進部長 石村 寛人さん

平成の再整備でより魅力的に

大通公園は、市民の思い出が詰まった場所。そのため、再整備に当たっては、今まで培ってきた魅力を生かし、高めることを意識しました。特にこだわったのが緑。樹木は配置を変えて生育環境を良くし、芝生は美しさが保たれるよう土を改良しました。8・9丁目に子どもの遊び場として、遊水路、イサム・ノグチの彫刻の滑り台を設けたのもこのときです。

つどい(遊び・イベント)ゾーン

6 丁目



北側にある開拓記念碑は、明治19年に建立され、明治32年に大通公園に移転。6丁目にはサクラが多く植栽されている。

5 丁目



中心に位置する聖恩碑は、昭和11年の天皇行幸と12年の水道事業完成を記念して建てられた。

オアシス(水と光)ゾーン

4 丁目



中央の噴水のほか、歌人・吉井勇がライラックを愛する札幌市民の気持ちを詠んだ歌碑がある。いずれも北海道銀行が寄贈した。



昭和
28年

花

大通に初めて花が植えられたのは明治9年ですが、本格的な花壇は明治40年に市民が自費で整備したのが始まりです。太平洋戦争を経て、大通公園からいったん花壇はなくなりますが、市民の強い要望を受けて、市が復旧を開始。昭和27年には市内の園芸店や造園業者などのグループによるボランティアでの花壇づくりが始まります。この活動団体はやがて札幌市花壇推進組合となり、現在も花壇コンクールなどを行い、多くの市民の目を楽しませています。



今年の大通公園花壇コンクールで市長賞を受賞した
(株)雪印種苗 すずき けんじ 鈴木 謙治さん

花壇の美しさを競うコンクールには、会社が花壇推進組合に加盟した昭和46年以来、毎年参加しています。花の成長を見込んでバランスや配色を吟味し、約1週間かけて造り上げます。北海道は寒暖の差が大きいので、本州よりも花の色が鮮やか。観光客も驚くほどです。大通公園で過ごす市民や観光客に喜んでもらえるよう、これからも花壇を美しく彩りたいですね。

↑ 戦後、復興してから数年後の大通花壇

大通公園の魅力



明治
13年

イベント

大通が初めてイベントの会場となったのは、明治4年の札幌祭り(現在の北海道神宮祭)といわれています。このほか、農業博覧会や競馬、小学校の運動会など、明治時代からすでにさまざまな催しの会場として使われていました。現在では、昭和25年に始まった雪まつりをはじめ、ライラックまつり、夏まつり、オータムフェスト、ホワイトイルミネーションなど、四季を通じて多彩な催しが行われています。



13年前からホワイトイルミネーションを担当している
札幌観光協会 いしかわ まさや 石川 雅也さん

ホワイトイルミネーションは、冬の大通公園を「明るく・暖かく」しようと、昭和56年に全国で初めて開催されました。昨年に30回を迎え、1,048球から始まった電球数は、50万球まで増加。一方、10年前から太陽光発電やLED化を進め、電力消費はピーク時の半分以下になっています。環境への負荷をできるだけ抑えながら、札幌の初冬の風物詩を今後引き継いでいきたいです。

↑ 大通公園で行われた第2回農業博覧会
(北海道大学附属図書館所蔵)

つどい(遊び・イベント)ゾーン

大通公園の見どころ

9 丁目



この森は形がクジラのように見えたことから「クジラの森」と呼ばれる。「くじら山」(滑り台)は子どもたちに大人気。

8 丁目



イサム・ノグチの作品「ブラック・スライド・マントラ」。「この彫刻は子どもたちのお尻によって完成する」と彼は語った。

連続

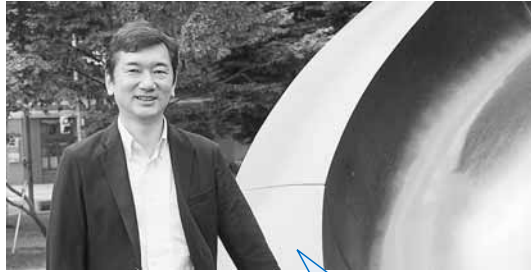
7 丁目



絶え間なく水が湧き出す水盤状の泉。高さ60cmと低く造られており、8丁目、9丁目まで見通せる。

彫刻

大小さまざまな彫刻・記念碑が置かれている大通公園。その数は18基にのぼります。戦前は開拓に功績のあった3人の銅像(戦争中に供出)が、戦後は平和を象徴する彫刻が主に置かれました。また、平成5年には世界的な彫刻家イサム・ノグチの「ブラック・スライド・マントラ」を設置。「9丁目にある滑り台を生かし、子どもたちの遊びの空間を広げたい」。そうしたノグチの思いを実現するため、道路で分断されていた8丁目と9丁目をつなぎ、そのほぼ中央に設置しました。



イサム・ノグチを札幌市に紹介した
(株)カスケード はっとり ひろゆき 服部 裕之さん

ノグチさんとは知人の紹介で出会いました。彼が公園や遊具の作品を構想しながら、アメリカでは実現できなかったことを聞き、札幌への設置を持ち掛けました。ブラック・スライド・マントラがそうであるように、彼はいつも「誰かのためになる作品」を意識していたと思います。これからも大通公園で彼の思いが生き続けてほしい。そう願っています。



昭和
10年代

↑西11丁目の様子。戦時中に金属材料として供出された初代北海道庁長官・岩村通俊像が見える(写真右)

市民が支えてきた

とうきび

大通公園でのとうきび売りの屋台は、明治30年代にはすでに出ていました。現在は4～10月、西1～4丁目を中心に札幌観光協会がワゴン販売しています。食生活の変化に伴い、最盛期には年間約93万本だった売り上げ本数は約13万本まで減少しているものの、札幌の名物として今も市民や観光客に親しまれています。



昭和56年から大通公園で
とうきびを販売 かわぞこ やすこ 川底 安子さん

とうきびのワゴン販売をするようになった当初も、大通公園は今のようの子連れの方やお弁当を食べる方でにぎわっていました。当時は1日に1,000本売れる日もあったんですよ。売り上げは減りましたが、味は昔よりずっと甘くておいしいです。札幌に来ると必ず買いに来てくれる本州の常連さんもいるので、私も体が動く限り、この仕事を続けたいです。



昭和
38年

↑当時のとうきび売りの風景

大通公園とうきび
50円引きクーポン

1本300円
⇒250円

- 有効期間:平成23年9/1(木)～30(金)
- コピー不可 ●他の割引との併用不可
- 販売員に提出 ●1枚につき4本まで

花ゾーン

12丁目



中央を流れる水路の周りを美しいバラが彩るサンクガーデン(沈床庭園)。西側には佐藤忠良作「若い女の像」が設置されている。

11丁目



ドイツ・ミュンヘン市との姉妹都市提携を記念して建てられた「マイバウム」。春の訪れを喜ぶ「5月の木」を意味している。

10丁目



札幌をはじめ北海道の開拓に功績を残した黒田清隆(写真右)とホーレス・ケブロン(写真左)の像が立つ。いずれも昭和42年に建立。

注目のイベントを紹介します



北海道のうまいもの、大集合

さっぽろオータムフェスト

9/16(金) ▶ 10/2(日) 午前10時～午後8時30分

(8丁目会場は午後6時まで)

メイン会場の大通公園4丁目～8丁目を中心に、道内各地から旬の食材や料理が集まります。17日間にわたって開催される道内最大級の食のイベントで、ぜひ秋の味覚を堪能してください。

【問い合わせ先】市コールセンター ☎222-4894

9/17(土)～19(祝)には、歴史パネルなどを展示する大通公園100周年記念ブースが登場します

メが



5
丁目

北海道のご当地グルメと ラーメン

「別海ジャンボホタテバーガー」や「十勝清水牛玉ステーキ丼」など道内各地の12のご当地グルメが登場。さらに、道産小麦100%の麺にこだわったラーメン店が、延べ15店集結します。

道産牛肉を使った
牛巻グルメが新登場!



写真提供 北海道じゃらん

4
丁目

人気シェフの料理や 近郊野菜を販売

市内人気店のシェフが日替わりで腕を振るう料理のほか、ドイツビールや世界のワインなども楽しめます。近郊農家による取れたて野菜の直売ブースにも注目。



4丁目に出店する
フレンチレストラン「ラ・サンテ」のシェフ たかはし たけし 高橋 毅さん

今年は9人のシェフが、旬の道産食材を生かしたオータムフェスト限定の料理を500円～1,000円で提供します。来店が難しいお子さん連れの人、仕事帰りにふらっと立ち寄る人など、幅広い人たちが来てくれるのは大通公園だからこそ。緑や噴水のすぐそばで、本格的な料理を楽しむのは、ここだけの贅沢ぜいたくだと思いますね。

道内市町村の ぞろい



7
丁目

道産のお酒と こだわりのおつまみ

道内各地のワイナリーと蔵元のお酒が一堂に集まります。焼き鳥やカキ料理などをつまみながら、さまざまなお酒を飲み比べてみては。

道内各地のベーカリー24店が、道産小麦を使ったパンを日替わりで販売します
開催日9/16(金)～19(祝)



大通、すすきの、円山地区に加えて、今年から創成川以東でも関連イベントを開催します!

9月5日(月)から区役所、市役所2階観光企画課などで配布するパンフレットや、ホームページwww.sapporo-autumnfest.jpをご覧ください。

使用方の多様化と 周辺環境の変化

時代の移り変わりに応じて、多くの役割を果たしてきた大通公園。現在、公園の使い方がより多様になり、周りの環境も大きく変化してきています。

1 イベントの多様化

平成6年に再整備されてから、大通公園で行われるイベントの規模や期間が拡大し、内容も食、芸術、祭りなど幅広くなってきました。利用の仕方が大きく変わる中、公園としての憩いと、イベントによるにぎわいとのバランスを考えていく必要があります。

2 住宅の増加

ここ数年、大通公園周辺にはマンションが増えてきています。こうした近隣の生活環境への影響に配慮しながら、多くの人がにぎわいを楽しめるよう、大通公園を活用することが求められています。

大通公園で行われる、この秋



大通公園1丁目の「妙夢」

存在感のある彫刻が都心を彩る

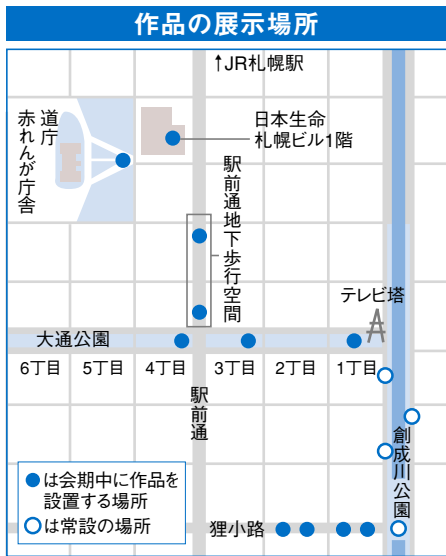
安田侃 野外彫刻展

—街に触れる—

9/3(土) ▶ 11/20(日)

イタリアを拠点に活躍し、国内外で高い評価を受ける彫刻家・安田侃。この春、創成川公園に設置された作品などに加え、大通公園や狸小路などに、合計29点を展示する野外彫刻展を開催します。

〔問い合わせ先〕市コールセンター ☎222-4894



上記のほか、JR札幌駅、札幌コンサートホールKitara、知事公館に作品を常設。また、会期中は中島公園に3点、サッポロファクトリーに1点を展示します。



大通公園3丁目の「意心帰」

安田侃の彫刻の魅力がよく分かる!

解説ツアーに参加しよう

作品の魅力や鑑賞のポイントを聞きながら、展示作品を巡ります。

【Aコース】 大通公園4丁目の作品「真無」集合→創成川公園→狸小路

【Bコース】 道庁赤れんが前の作品「帰門」集合→日本生命札幌ビル→駅前通地下歩行空間→大通公園

日時 Aは9/17(土)、10/22(土)、Bは10/1(土)、11/12(土)。A、Bそれぞれの集合場所に当日午後1時に集合。

所要時間60分程度 **費用**無料



大通公園4丁目の「真無」

解説ツアーの案内人 **石崎 幸代さん**

安田侃さんはローマなど世界各地で野外彫刻展を行っています。これだけ大規模なものは国内初です。作品の最大の魅力は、眺めるだけでなく、触れたり中をくぐったりして自由に楽しめること。大通公園には、広い空間に合わせてスケールの大きい作品を展示しています。ぜひ気軽に作品に触れて、いつもとは違う街の風景を感じてみてください。

6丁目 札幌発のグルメ大集合

人気スーパーカレー店などの市内の飲食店が、自慢の一品を販売。さっぽろスイーツ、釜焼きピッツァなどバラエティー豊かな札幌グルメを満喫できます。

秋らしいオータム限定スイーツも販売します

8丁目 100を超える自慢の味が勢

週末を中心に、延べ100を超える市町村が自慢の特産品を販売。毎年人気のカニやウニなどの海産物のほか、和牛ステーキや乳製品など北海道中のおいしいものに出会えます。

昨年売り上げ1位の紋別市の炭火焼本ずわいがに甲羅盛

詳しくは、

これからの100年も 大通公園は市民とともに

戦中・戦後の時代、荒廃していた大通公園を復活させたのは市民の声であり、行動でした。これからの100年、もっと愛され、誇りに思える大通公園にしていくために、皆さんと共に、市はそのあり方を考えていきます。

大通公園100歳スペシャルイルミネーション

日時9/15(木) 午後7時45分 **会場**大通公園2丁目広場
 パステルケーキのろうそくのようなテレビ塔のイルミネーションを、来場者で一齐に吹き消すセレモニーを行います。みんなで100歳のお祝いをしに来ませんか。

大通公園についての思い出をお寄せください

今後の大通公園のあり方を考えるため、皆さんの思い出を募集します。
提出方法 「あなたにとっての大通公園の一番の思い出」とともに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入し、政策企画部企画課(市役所内/1階、ファクス218-5109、Eメールcitypromote@city.sapporo.jp)へ送付、ファクス、Eメール。

